

ロッテマリーンズの応援はやめられん!

野球はどちらのファンですか、なんてたわいない質問がある。

いきなり「ロッテです。」なんて答える。

一瞬の間があってから「はあ、めずらしいですね。」となり会話が途切れる。

一度や二度やないわな。相手はまあ阪神か巨人か、どちらにしてもそれなりの情報を持って挑める無難な質問のつもりだったのに、いきなりロッテでは「ヒトゲノムの解析についてどう思われます?」なんて質問をされたのと同じくらい困惑したことだろう。こっちだってめんどくさいんだよ。「パ・リーグで」「むかし落合がいた球団で」「今は黒木とか石井がいて」なんて説明しなくちゃいけない。

最近はいきなりカミングアウトせず「どこだと思えます?難しいですよ。」とワンクッション置くことにしている。

生まれてこの方、こうした機会に「おれもロッテファンやねん」という御仁に出会ったことは二度しかない。悲しいかな「嘘やろう。」と確認したりして。まあそれだけ世にロッテファンというのは少ないのだ。

しかし球場に行けば関西流星会(旧)など熱心なロッテファンの方々も多く、どこからこんなに集まってくるのか、ふだんはどこに隠れているのか実に不思議だ。

応援席では同胞感をつよく感じる。おそらくどの球団のファンよりも強いのではないやろか。ふだんマイナーなひとりひとりが、ここではそれがコンセンサスなんだという安心感があるからやろう。

すいているからといってロッテ側の応援席に座る相手ファンもいる。ピンチに拍手したりして。そんな輩は睨みつけてやる。

私がロッテファンになったのは1973,4年頃だろう。野球に関心を持ち始めたちょうどそのころ、カネやんが監督に就任し派手なパフォーマンスを披露、マスコミの注目を集めた。これがきっかけなのだろう。1974年には優勝。まわりはほとんど阪神ファンという中で、中日ファンの友人と日本シリーズについて語り合った記憶がある。

球場にも何度か足を運んだ。日生、西宮、大阪。今はもう野球は行われていない球場ばかりだ。村田のマサカリ投法、落合の目にもとまらぬ打球の速さ、いぶし銀の山本功、広田、強打のリー兄弟、有藤、山内監督・稲尾監督など今でも瞼に浮かぶぜ。

しかし弱小球団だな。1974年以来、四半世紀のあいだ優勝から遠ざかっている。現在12球団中、最も優勝から遠ざかっているチームになってしまった。

そろそろ今年あたりどうだ?4月当初の泥沼の借金14が今は5。首位までわずか5.5ゲーム差。十分に優勝をねらえる位置にあるぞ。石井や黒木など主力が二軍落ちして福浦・小野など若手中心の戦いであるにもかかわらず、ここんところ逆転、競り勝ち、などイイ勝ち方をしている。

オールスターあけにちょっと連勝でもすれば、もしかして…、などと淡い期待も。おそらく誰もそんなことは思ってもいないだろう。だからこそ「おれが見放すわけにはいかん」のだ。今年もグリーンスタジアムレフトスタンドに応援に行かず!

8/8,9,10,26,27